

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

貯 法：室温保存
使用期限：外箱に表示劇薬
向精神薬
習慣性医薬品^{注1)}
指定医薬品
要指示医薬品^{注2)}催眠鎮静剤
日本薬局方
アモバルビタール
イソミタル®
Isomytal日本標準商品分類番号
871125承認番号 (61AM)386
薬価収載 1950年9月
販売開始 1950年2月
再評価結果 1975年12月

注1)注意-習慣性あり

注2)注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

禁 忌（次の患者には投与しないこと）

バルビツール酸系化合物に対し過敏症の患者

原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には観察を十分行い慎重に投与すること）

- 心障害のある患者
[血圧が低下することがある。]
- 肝障害、腎障害のある患者
[代謝、排泄機能の低下により、効果や副作用が強くなる可能性がある。]
- 呼吸機能の低下している患者
[呼吸抑制を起こすことがある。]
- 急性間歇性ポルフィリン症の患者
[痙攣や精神神経症状など本症の急性症状を誘発することがある。]
- 薬物過敏症の患者

組成・性状

1. 組成

本剤は日本薬局方アモバルビタールである。

2. 製剤の性状

本剤は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

効能・効果

不眠症、不安緊張状態の鎮静

用法・用量

不眠症には、アモバルビタールとして、通常成人1日0.1～0.3gを就寝前に経口投与する。

不安緊張状態の鎮静には、アモバルビタールとして、通常成人1日0.1～0.2gを2～3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

使用上の注意

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1) 幼小児、高齢者、虚弱者

[呼吸抑制を起こすことがある。]

(2) 頭部外傷後遺症又は進行した動脈硬化症等の脳の器質障害のある患者

[脳血流量の低下により、脳障害が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。

※3. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素CYP3Aを誘導することが示唆されているので、CYP3Aで代謝される薬剤は、本剤との併用により代謝が亢進され、血中濃度が低下する可能性がある。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗不安薬 抗精神病薬 催眠鎮静薬 抗うつ薬 抗ヒスタミン薬 チアジド系薬物 ジスルフィラム 解熱鎮痛剤 アルコール	相互に作用が増強されることがあるので、このような場合は減量するなど慎重に投与すること。	本剤およびこれらの薬剤の中樞神経抑制作用による。
クラレー様物質		クラレー様物質の筋弛緩作用が増強される。
クマリン系抗凝血薬	クマリン系抗凝血薬の作用に影響を与えるので、本剤をクマリン系抗凝血薬の治療下にある患者に投与する場合には、通常より頻回にプロトロンビン値の測定を行い、クマリン系抗凝血薬の量を調整すること。	本剤は薬物代謝酵素を誘導し、これらの代謝を促進させ、作用を減弱させる。
ドキシサイクリン	ドキシサイクリンの血中濃度半減期が短縮することがある。	
ゲフィチニブ	ゲフィチニブの作用を減弱させることがある。	本剤の肝代謝酵素（CYP3A）誘導作用により、ゲフィチニブの代謝が亢進し、血中濃度が低下する可能性がある。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）（頻度不明）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

(2)その他の副作用

種類	頻度	頻度不明
過敏症 ^(注1)	過敏症状	
精神神経系 ^(注2) (連用により)	知覚異常、構音障害、精神機能低下、せん妄、 昏迷又は運動失調	
腎臓・血液 ^(注3) (連用により)	ヘマトポルフィリン尿、蛋白尿、低カルシウム血症、 巨赤芽球性貧血(葉酸代謝異常によると思われる。)	
その他	頭痛、発熱、発疹、めまい	

注1)投与を中止すること。
注2)減量するなど適切な処置を行なうこと。
注3)連用に際しては注意すること。

5.高齢者への投与

高齢者では、運動失調等の副作用が発現しやすいので、少量から投与を開始するなど慎重に投与すること。

6.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦に投与する場合には慎重に投与すること。

[妊娠中に投与すると、新生児の出血傾向、呼吸抑制等を起こすことがある。]

(2)分娩前に連用した場合、出産後新生児に禁断症状(多動、振せん、反射亢進、過緊張など)があらわれることがある。

7.その他の注意

(1)薬物依存

連用により、薬物依存傾向を生ずることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。

特にアルコール中毒、薬物依存の傾向又は既往歴のある患者、重篤な神経症患者に対しては、注意すること。

(2)禁断症状

連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、ときに不安、不眠、痙れん、悪心、幻覚、妄想、興奮、錯乱又は抑うつ状態があらわれることがあるので、投与を中止する場合には徐々に減量するなど慎重に行うこと。

なお、高齢者、虚弱者の場合は特に注意すること。

薬物動態^{(1),(2)}

経口投与した場合、全消化管から容易に吸収され、体内の各組織及び体液に分布する。一般に脳、腎及び肝に高濃度に分布する。投与量の33~51%はヒドロキシアモバルビタールに代謝され尿中に排泄される。未変化体は4~5日間、ヒドロキシアモバルビタールは6~9日間にわたって尿中に検出される。

注：日本人のデータではない。

薬効薬理

1)催眠・鎮静作用

アモバルビタールはバルビタールに比し強い催眠作用を示し、作用発現は早く、持続時間は短い(マウス³⁾、イヌ⁴⁾)。また低用量で鎮静作用を示す(マウス⁵⁾)。

2)その他、抗痙れん作用(ウサギ⁶⁾)、血圧低下作用(ウサギ^{3),5)})を示し、呼吸(マウス³⁾、ウサギ^{3),5)})及び心機能(ネコ⁷⁾)を抑制する。

有効成分に関する理化学的知見

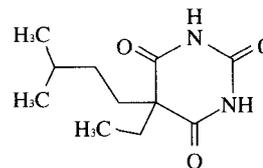
一般名：アモバルビタール (Amobarbital) (JAN)

化学名：5-Ethyl-5-isopentylpyrimidine-2,4,6-(1H,3H,5H)-trione

分子式：C₁₁H₁₈N₂O₃

分子量：226.27

化学構造式：



融点：157~160℃

性状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

本品はエタノール(95)、アセトン又はジエチルエーテルに溶けやすく、クロロホルムにやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

本品は水酸化ナトリウム試液又は炭酸ナトリウム試液に溶ける。

本品の飽和水溶液のpHは5.0~5.6である。

包装

イソミタール：25g、100g、500g

主要文献

- 1) 島本暉朗ほか：薬理学，74(1964)
- 2) Grove, J., et al : J. Pharm. Pharmacol., 23(12), 936(1971)
- 3) 荻生規矩夫ほか：薬学研究，22(4), 151(1950)
- 4) Shonle, H. A., et al. : J. Am. Chem. Soc., 45(1), 243(1923)
- 5) 新津茂良：成医会誌，50(9), 50(1931)
- 6) Swanson, E. E. : J. Lab. Clin. Med., 17, 325(1932)
- 7) Garry, R. C. : J. Pharmacol. Exp. Ther., 34(2), 129(1930)

文献請求先

日本新薬(株) 医薬情報センター Fax.(075)313-7990
〒601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14

製造発売元
 **日本新薬株式会社**
京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14